論　文 ニダバ (*Nidaba*) 34(2005), 77-86

チェコ語の文型の機能構造

― 結合価とＦＰ（機能的構成）を中心として ―

本　城　二　郎

０．序論：チェコ語の類型的特徴と機能構造

チェコ語は、形態類型論的には屈折タイプに属する。文は、支柱語としての動詞が固有の法・時制・極性カテゴリー表示子により文法機能を付与され、主として動詞を中心とした結合価により形成される叙述・文型構造を示すことから、文要素配列は、固定位置の前後倚辞を除き、自由語順により特徴付けられる。機能構造論的観点に立てば、文法要素の位置的固定化は、（伝達）機能要素の位置的可変化へと向かい、文法要素の位置的自由化は、（伝達）機能要素の位置的固定化へと向かい、その結果言語現象の多様なバリアントが形成されると考えられる。無標Th(ﾃｰﾏ)-Rh(ﾚｰﾏ)語順という位置的固定化により規定されるチェコ語文型の場合、文の抽象化に伴う位置的固定化と機能的固定化の併存が存在することから、文の発話化に際して、位置的自由化を通じて無標の機能的固定化および有標の機能的可変化が実現され、その結果機能構造の多様なバリアントが生起する。本論の目的は、チェコ語の文型のタイプ分けがどのような基準で可能か、またどのような機能構造の獲得によりポテンシャルな最小発話としての特徴を持つに至るのか、をそれぞれ探ることである。

１．チェコ語の述語動詞の分類と文型

チェコ語の述語動詞は、主要な文法統語的カテゴリーの一つである結合価が３つ、下位のものも含めると、４つの示差的特徴つまり繋辞性・左方結合価性・右方結合価性・目的語項結合価性を示すことから、その文法文型（ＧＳＰ）は、各特徴の有無により、それぞれ動詞述語文／繋辞文、両肢文／単肢文、項結合価述語文／φ項結合価述語文、目的語項述語文／非目的語項述語文に類別することが可能である。他方、主要な意味統語的カテゴリーの一つであるインテンションが４つの示差的特徴つまり動作性・完結性・分節性・意図性を示すとことから、各特徴の有無により、意味文型（ＳＳＰ）を設定することは一見容易に思える。しかし、 **Karel má hodinky.**(ｶﾚﾙは時計を持っている。)≒**Hodinky patří Karlovi.**(時計はｶﾚﾙのものだ。)における意味的シノニムや、**Jiří učí angličtinu.**(ｲｼﾞｰは英語を教えている。)＝**Jiří je učitel angličtiny.**(ｲｼﾞｰは英語の先生です。)における意味的ホモニム等の現象に見られる文法と意味の非対称的二重性の結果、個別言語の意味的バリアントが存

在し、意味関係を一義的に特徴付ける不変項の設定は困難と考えられる。解決法としては、通言語的に妥当な認知内容の類別化および文法文型によるそれ（＝認知内容）の修正を通じての意味文型設定が有効とみなされる。前者の手段としては、関係論理学に基づく述語インテンションの意味公式（ＳＦ*[1]）化があり、上記の４示差的特徴による類別が可能である。後者の手段としては、文法文型および（意味公式から派生される）意味文型を包括する複合文型（ＣＳＰ）があるが、その詳細は４章にゆだねる。

２．文法文型（ＧＳＰ）と結合価（VALENCY*[2]）

結合価の３つの示差的特徴に基づく文法文型は、次の６タイプに分類可能であり、それに従い、以下に個別の文型の具体例列挙を試みる。

・繋辞性がない：繋辞文
　　ある：動詞述語文
・左方結合価がない：単肢文
　　ある：両肢文
・右方結合価がない：非項結合価述語文
　　ある：項結合価述語文
　　→・目的語項結合価がない：副詞・形容詞項結合価文
　　ある：目的語項結合価文

チェコ語の文型と動詞結合価：文の基本構造を固定させる働きをもった文を文型と呼ぶ。それは、少なくとも１つ（以上）の定動詞から構成され、文の最少単位となる。定動詞は、（時制・法・人称・数・などを示す）述語の機能と、（文中の他の項との可能な種類の結合を示す）結合価を持つ。以下に定動詞の結合価による文型分類を試みる。

（表記法）VF：定動詞 ■；N：名詞 ○；ADV：副詞（的修飾語） ◇；ADJ：述語形容詞（的補語） ◎；SENT：文／従属節 ●；INF：不定詞 □；－結合子；$○_{主格}$や$◇_{場所}$等における下つき縮小文字は各語類の（文法／意味）範疇子

⑴左方結合価のない文構造（**単肢文**）：基本形：■－

Ⅰ．単肢φ（ゼロ）結合価述語文　■

$VF_{3単中}$　**Prší(<pršet).** 雨が降っている。

Ⅱ．単肢１項結合価述語文　■－○／◇

$VF－N_{対格}$　**Mrazí(<mrazit) mě.** 私は凍えそうだ。

$VF－N_{与格}$　**Vytrávilo(<vytrávit) nám.** 私たちは空腹になった。

$VF－_{前置詞}N$　**Došlo(<dojít) k nehodě.** 事故が生じた。

$VF－ADV_{場所}$　V hodinách **hrklo(<hrknout).** 時計がカチカチ音を立てていた。

Ⅲ．単肢２項結合価述語文　■－○－○／◇／●（／□）／／■－◇－○

$VF－N_{与格}－N_{属格}$　**Dostalo se(<dostat se)** mu odplaty. 彼は報酬を得た。

$VF－N_{与格}－_{前置詞}N$　**Šlo(<jít)** mu o kariéru. 彼は出世に関わっていた。

VF－$N_{対格}$－$ADV_{場所}$　**Bolí(<bolet)** mě na prsou. 私は胸が痛い。

VF－$N_{与格}$－$ADV_{場所}$　**Zní(<znít)** mi v uších. 私は耳鳴りがする。

VF－$N_{与格}$－SENT/INF　**Nedalo(<dát)** mi, abych se nezeptal/se nezeptat. 私は質問せずにはいられなかった。

(2)左方結合価のある文構造（**両肢文**）：基本形：○－■－

Ⅳ．両肢１項結合価述語文　○／●／□－■

$N_{主格}$－VF　Stromy **kvetou(<kvést)**. 木々は花が開いている。

INF－　Lhát **se nevyplácí(<ne-vyplácet)**. 嘘をついても仕方がない。

SENT－VF　**Proslýchá se(<proslýchat se)**, že se budou zvyšovat ceny. 物価が上がるという噂だ。

Ⅴ．両肢２項結合価述語文　○－■－○／●／□／◇

ⅰ．両肢右方目的語項結合価述語文　○－■－○／●／□

$N_{主格}$－VF－$N_{属格}$　Rodiče **se zřekli(<zříci se)** syna. 両親は息子を捨て/諦めた。

－SENT　**litoval**, že...　彼は...で残念に思った。

$N_{主格}$－VF－$N_{与格}$　**Smáli se** mi do očí. 彼らは面と向かって僕を嘲笑していた。

$N_{主格}$－VF－$N_{対格}$　Karel **potkal** Věru. カレルはヴェラに出会った。

－SENT　**Předpokládám**, že přijde brzy. 彼が間もなくやってくると思う。

$N_{主格}$－VF－$N_{具格}$　Karel **hýbá** ušima. カレルは耳を動かしている。

$N_{主格}$－VF－$_{od}N_{属格}$　Karel **se odloučil** od přátel. カレルは友人達と別れた。

$N_{主格}$－VF－$_{proti}N_{与格}$　Karel **se postavil** proti smlouvě. カレルは契約に反対した。

$N_{主格}$－VF－$_{na}N_{対格}$　Karel **čeká** na přítele. カレルは友人を待っている。

$N_{主格}$－VF－$_{o}N_{対格}$　Karel **usiloval** o nápravu. カレルは改心するよう努力した。

$N_{主格}$－VF－$_{v}N_{対格}$　Karel **věří** ve spravedlnost. カレルは正義を信じている。

$N_{主格}$－VF－$_{na}N_{前置格}$　To **záleží** na jeho rozhodnutí. それは彼の決断次第だ。

$N_{主格}$－VF－$_{o}N_{前置格}$　Karel **mluví** o své práci. カレルは自分の仕事の話をしている。

$N_{主格}$－VF－$_{po}N_{前置格}$　Karel **touží** po autě. カレルは車に憧れている。

$N_{主格}$－VF－$_{nad}N_{具格}$　Karel **se zamyslel** nad úkoly. カレルは課題ついてよく考えた。

$N_{主格}$－VF－$_{před}N_{具格}$　Karel **se skryl** před otcem. カレルは父から身を隠した。

$N_{主格}$－VF－SENT　Věra **se domnívala**, že někdo stojí za dveřmi.
ヴェラは誰かが扉の背後に立っていると思った/想像した。

ⅱ．両肢右方副詞項結合価述語文　○－■－◇

$N_{主格}$－VF－$ADV_{場所}$　Karel **bydlí** v Praze. カレルはプラハに住んでいる。

$N_{主格}$－VF－$ADV_{時}$　Schůze **trvala** hodinu. 会議は1時間続いていた。

$N_{主格}$－VF－$ADV_{様態}$　Karel **se choval** neslušně. カレルは行儀が悪い。

ⅲ．両肢右方補語項結合価述語文　○－■－◎

$N_{主格}$－VF－$ADJ_{主格}$　Karel **vypadá** unavený. カレルは疲れた様子だ。

Ⅵ．両肢３項結合価述語文　○－■－○－○／●／◇／◎

i．両肢右方２重目的語＜３格＋４格＞項結合価述語文　○－■－○－○／●

$N_{主格}$－VF－$N_{与格}$－$N_{対格}$　Otec **daroval** synovi hodinky. 父は息子に時計を贈った。

VF：*<情報伝達>の動詞*－$_{že}$SENT　Písemně mi **oznámil**, že nepřijede.

彼は手紙で（乗物で）来ないことを知らせてきた。

－$_{aby}$SENT　**Přikázal** jsem pacientovi, aby ležel. 私は患者が横になるよう指示した。

－INF　Lékař mi **radí** odjet. 医者は私が出かけるよう勧めている。

ii．両肢右方２重目的語＜４格＋斜格＞項結合価述語文　○－■－○－○

$N_{主格}$－VF－$N_{対格}$－$_{s}N_{具格}$　Karel **smíchal** vápno s vodou. カレルは石灰に水を混ぜた。

$N_{主格}$－VF－$N_{対格}$－$_{k}N_{与格}$　Vyšetřovatel **přinutil** zatčeného k doznání.

捜査官は逮捕者に自白を強要した。

$N_{主格}$－VF－$N_{対格}$－$_{o}N_{対格}$　Podvodník **připravil** Karla o peníze. 詐欺師はカレルからお金を奪い取った。

iii．両肢右方２重目的語＜斜格＋斜格＞項結合価述語文　○－■－○－○

$N_{主格}$－VF－$N_{与格}$－$_{o}N_{前置格}$　Spisovatel **vyprávěl** posluchačům o Americe.

作家は聴講者達にアメリカについて語った。

$N_{主格}$－VF－$N_{与格}$－$N_{具格}$　Karel **se chlubil** Jirkovi novým kolem.

カレルはイレクに新しい自転車の自慢をしていた。

iv．両肢右方２重＜４格目的語＋副詞修飾語＞項結合価述語文　○－■－○－◇

$N_{主格}$－VF：*<移動>の動詞*－$N_{対格}$－$ADV_{場所}$　Sedlák **naložil** seno na vůz. 農夫は干草を車両に積み込んだ。

v．両肢右方２重＜３格／４格目的語＋補語＞項結合価述語文　○－■－○－◎

$N_{主格}$－VF－$N_{与格}$－ADJ　Úkol **se mi jevil** neřešitelný. 課題は私には解決不可能と思われた。

$N_{主格}$－VF－$N_{対格}$－$_{za}N_{対格}$　**Považoval** jsem Karla za přítele. 私はカレルを友人と見做していた。

(3)左方結合価のない繋辞文の構造（**単肢繋辞文**）：基本形：$■_{繋辞}$＋

Ⅶ．単肢φ（ゼロ）結合価繋辞文　$■_{繋辞}$＋◇

$VF_{繋辞}$＋ADV　**Je hezky.** 天気がいい。

Ⅷ．単肢非１格主語結合価繋辞文　$■_{繋辞}$＋数詞－○

$VF_{繋辞}$＋数詞－$N_{調格}$　**Bylo** nás pět. 我々は5人いた。

(3)左方結合価のある繋辞文の構造（**両肢繋辞文**）：基本形：○－$■_{繋辞}$＋

Ⅸ．両肢φ右方結合価繋辞文　○－$■_{繋辞}$

$N_{主格}$－$VF_{繋辞}$＋$N_{主格}$/$N_{具格}$　Sestra **se stala** účitelkou. 姉は教師になった。

Ⅹ．両肢右方結合価繋辞文　$■_{繋辞}$－○＋◎－○

$N_{主格}$－$VF_{繋辞}$＋ADJ－$N_{調格}$/$N_{与格}$/ $_{前置詞}N_{前置格}$　Karel **je** podobný otci. カレルは父親似だ。

３．意味文型（ＳＳＰ）とインテンション*3に基づく意味公式（ＳＦ）

文法文型（ＧＳＰ）が述語により異なる結合価という関係子に基づき、結合価要素との文法関係を表示するのと平行して、意味文型（ＳＳＰ）は、述語により異なるインテンションという関係子に基づき、意味内容要素との意味関係を表示することによって、

文型全体（つまり複合文型）が確定するとする見方がある。これは、プラハ学派の文型モデル（ＳＰＭ）として広く知られている機能的文型論の一つである。それによると、文型における意味関係とは、結合価を持つ述語動詞とそれが支配する結合価要素との間に設定可能な意味文型に相当するものと解釈可能であり、意味文型は、個別言語により多様な個別言語的意味およびそのバリアントが存在することから、広く認知内容としての意味公式（ＳＦ）の文法統語的修正（つまりＳＦ要素の形態統語役割の確認）を通じてのみ設定可能となる。以下に、複合文型のタイプ分けのための必要条件として、示差的特徴を持つ述語の意味公式（ＳＦ）に基づき、文型のタイプ分けを試みる。

ＳＦ（安定的） ―― ＧＳＰ（安定的）による／修正／ ――→ ＳＳＰ

１類．状態述語：－動作性 *states*: *s*

１－１類．２項状態述語：＋分節性：$_x$ L $_y$, $_x$ LC $_y$, $_x$ P $_y$, $_x$ PM $_y$, $_x$ Q $_y$, $_x$ QN $_y$

１－２類．１項状態述語：＋分節性：$_x$ E, $_x$ POS

１－３類．非分節状態述語：－分節性：E

２類．動作述語：＋動作性

２－１類．過程述語：＋動作性、－完結性：*processes*: *p*

２－１－１類．動作過程述語：＋意図性 $_x$ PR $_p$, $_x$ A $_{p(y,z)}$: *action processes*

２－１－２類．非動作過程述語：－意図性 $_x$ B $_p$, $_x$ B $_{p(y,z)}$: *non-action processes*

２－１－３類．非分節過程述語：－分節性 PR

２－２類．変化述語：＋動作性、＋完結性：*mutations*: *m*

２－２－１類．動作変化述語：＋意図性 $_x$ A（$\triangle^1$ T $\triangle^2$）*4 : *agentive mutations*

２－２－２類．非動作変化述語：－意図性 $\triangle^1$ T $\triangle^2$: *inchoatives*

２－２－３類．非分節動作変化述語：－分節性 T

例．２－２－１類．動作変化述語 rozsvítit(明かりを点ける)：＋意図性

SF： $_x$ A（$\triangle^1$ T $\triangle^2$）＞ $_x$ A（（$_y$ B $_p$）T（$_y$ B $_p$））

Karel rozsvítil lampu. カレルはランプに明かりを点けた。

$_x$ A（（$_y$ B $_p$）T（$_y$ B $_p$））　　ＳＦ

$N_{主格}$ － VF － $N_{対格}$　　ＧＳＰ

↓ $N_{主格}$～$_x$～AGENT, $N_{対格}$～$_y$～PATIENT/BEARER　↓/修正/

AGENT ACTION/CAUSATION PATIENT　　ＳＳＰ

解釈：$_x$A($\triangle^1$T$\triangle^2$)：「$_x$:Karel($N_{主格}$)が$\triangle^1$T$\triangle^2$つまり移行・変化:rozsvítitのA:動作主である」：「カレルは～をする」

($_y$B$_p$)T($_y$B$_p$)：「($_y$B$_p$)つまりy:lampaがp:svítitのB:担い手でない状態から、($_y$B$_p$)つまり担い手の状態に変わる」

：「ランプに明かりが点く」

４．チェコ語の文型と機能構造

文型は、単純文型の場合、述語動詞とそれが支配する結合価要素により構成される文法文型（ＧＳＰ）、それに述語動詞のインテンション（意味内容）とそれが意味関係を

結ぶ意味役割子により構成される意味文型（ＳＳＰ）とに分類可能である。述語動詞の結合価支配により特徴付けられるという点で、文法文型は比較的独立した構成原理により設定可能である。他方、意味レベルの対応物としてのインテンションが潜在的な意味的シノニムや意味的シノニム等の現象を内在させることから、意味文型は多義的でバリアントも排除されず、安定的な構成原理による設定が可能ではない。個別言語の意味変異に根差した不安定な意味レベルは、通言語的に安定的な認知内容のレベルを設定し、同じく安定的な文法レベルを加えた両者により規定可能であるという前提に立てば、意味文型は認知内容を表示するＳＦ（意味公式）の文法文型による修正の結果と見なすことが出来る。これは、文法・統語的意味を意味文型が専ら扱うことを考えれば自明のことである。文法文型と意味文型を統合したものを複合文型と呼ぶ。

言語の階層構造の相違は、外層→内層の抽象化および内層→外層の現実化という２方向に顕在化する。それぞれ、発話→文型（→認知内容）および（認知内容→）文型→発話に対応する。発話文を構成する要因のうち、伝達の要件が最も主要なものと見なされることから、以下に、発話文要素のTh(ﾃｰﾏ)-Rh(ﾚｰﾏ)分割を実現するＦＳＰ（機能的文構成）による分析法を用い、最小発話を表示する文型の機能構造の特徴付けを試みる。なお、抽象化の度合いの高い文型がＦＳＰ決定要因の最上位にある文脈の影響を受けないことから、文型のＦＳＰ基本配列は一貫した文脈独立意味スケール*5への志向を示す。個別の意味文型に基づく複合文型は、動的意味関係（つまり文脈独立意味スケール）を表示する最少発話として、要素機能の再解釈が求められることを付記しておく。

ＦＳＰ（機能的文構成）とＦＰＰ（機能的文型構成）：

ＦＳＰ（機能的文構成）とは、文要素が文中で果たす伝達機能（ＦＳＰ機能）に応じて配列される文構成を意味し、無標のTh(ﾃｰﾏ)-Tr(務行)-Rh(ﾚｰﾏ)語順を基本配列となる。文の機能的構成の中心を成すのは、定動詞のＴＭＥ（法・時制カテゴリー表示子）要素で、それが固有に担うTrPr(務行･連結ﾌﾟﾛﾊﾞｰ)役割を通じて、文全体は言語外現実と連結し、現実発話となる。他方、文内の機能的構成の中心を成すのは定動詞の概念内容部分で、それが担うTr(務行)役割を通じて、文内部は要素の機能的結束（Th-Rhネクサス）を可能にする。これに対し、ＦＰＰ（機能的文型構成）とは、結合価要素が文型中で付与される位置の潜在的な伝達機能（ＦＰＰ機能）に応じて配列される文型構成を意味し、固定要素のTh(ﾃｰﾏ)-Tr(務行)-Rh(ﾚｰﾏ)配列として規定することが可能である。しかし、文型の機能的構成の中心を成す定動詞には、TrPr(務行･連結ﾌﾟﾛﾊﾞｰ)役割を担うＴＭＥ要素の弱化・欠如が内在することから、文型全体は潜在的な最少発話の構成を実現するのみである。他方、文型内の機能的構成の中心を成すのは、述語動詞の意味内容部分の中心にある意味関係を統括するVALENCY（結合価カテゴリー表示子）要素で、それが担う結合価要素支配により、文型内部の文法的結束（つまり文法文型）が可能となる一方、それが潜在的に担うTr(務行)役割を通じて、文型内部は結合価要素の機能的結束（つまりTh-Rhネク

サス）を可能にしている。

ＦＳＰ基本配列：述語動詞文：Ｖ．ThPr-(ThPro-)Th-DTh－TrPr-(TrPro-)Tr－Rh-RhPr

チェコ語文型の語順原理：

チェコ語は、文要素の主要語順原理がＦＳＰ原理であり、文位置がＦＳＰ機能を持つというＦＳＰ化語順により特徴づけられる。従って、文頭の文要素にはTh機能が付与されTh要素となるが、文末の文要素はRh機能を担うRh要素となる。他方、文型の主要語順原理は文法原理であり、文法機能により結合価要素の位置が決定され、ＦＳＰ原理は主に修正原理としての役割を持つ。

例．Tu sukni jsem dostal za sto korun v Domě módy. そのスカートはモード・ハウスで入手した．

その スカート　私は~だ 入手した ~で　100コルナ　~で ハウス モード

Tu sukni　jsem　dostal za sto korun v Domě módy.*6

$(_{Th\ Rh-TrPr-Tr})$DTh ThPr　TrPr-Tr Rh(　) RhPr$(_{TrPr\cdot\ Rh-TrPr-Tr})$：ＦＳＰ

CNE:主格単数　TME:過去平叙　CE前置詞　CE前置詞　CNE:前置格単数

$_x$ A(($_x$ P $_y$) ∨ ($_w$ P $_z$)) T (($_x$ P $_z$) ∧ ($_w$ P $_y$)))　：ＳＦ

Tu sukni jsem dostal za sto korun v Domě módy.

$N_{対格}$　$(N_{主格}-)$VF　$_z$ a$N_{対格}$　$_v N_{前置格}$　：ＧＳＰ

$N_{主格}$～$_x$～AGENT/ACCEPTER=POSSESSOR^2, $_z$ a$N_{対格}$～$_y$～DONUM^2:お金,

↓ $N_{対格}$～$_z$～DONUM^1:評価物, $_v N_{前置格}$～$_w$～DONOR=POSESSOR^1

THING ACCEPTED^1 ACCEPTANCE　THING ACCEPTED^2　GIVER　：ＳＳＰ

文型解釈．２－２－１類．動作変化述語：$_x$ A（△^{1} T △^{2}）に相当し、特に１－１類．の２項状態述語：$_x$ P $_y$が挿入されたもの。

５．チェコ語の複合文型のタイプと機能分析

文法文型（ＧＳＰ）および意味公式（ＳＦ）に基づく意味文型（ＳＳＰ）を包括した文型形式を複合文型（ＣＳＰ）と呼ぶ。以下に、ＦＳＰによる機能分析も加え、複合文型のタイプの可能な列挙と具体例の観察を試みる。

①１－１類．SF: $_x$ QL $_y$　属性文　být(~だ)

(On) Je bohatý. 彼は金持ちだ．　☜ (自由項onの付加による)有標形

$(N_{主格}-)$ VF$_{(být)}$ －ADJ$_{主格}$　（**両肢繋辞文**Ｘ）

(BEARER－)QUALITY : (B)　AofQ　Q

(Th) TrPr　Tr=Rh

②１－２類．SF: $_x$ E　存在文　je, jsou(ある、いる)

(Tady) Není žádný bůh. (ここに)神はいない．　☜ (自由項tadyの付加による)有標形

VF$_{3人称単数(být)}$ －$N_{主格}$　（**単肢**φ結合価**繋辞文**Ⅷ）

EXISTENCE－PERSON/THING EXISTING : (Set) Ex/Pr　Ph

(Th)　TrPr-Tr Rh$(_{TrPr-Tr=Rh})$

③１－３類．SF: S　状態／現象文　být+状態副詞(～い、～だ)

(Dnes) Je teplo.　(今日は)暖かい/だ。　☜ (自由項dnesの付加による)有標形

$VF_{3人称単数(být)}$ － $ADV_{性質}$　（**単肢**非１格主語結合価**繋辞文**Ⅶ）

PHENOMENON/STATE : (B)　AofQ　　Q

(Th) TrPr-Tr Rh

④２－１－１類．SF: $_x$ A $_{p(y)}$　動作過程文

Jan následoval vůdce.　ヤンは指導者の後に続いた。

$N_{主格}$ － VF － $N_{対格}$　（**両肢**２項結合価述語**文**Ⅴ）

AGENT－PROCESS－PROCESSOR : B　Q　　Sp

Th　TrPr-Tr　Rh

⑤２－１－２類．SF: $_x$ B $_p$　状態過程文

Stromy rozkvétají.　木は花開いている。

$N_{主格}$ － VF　（**両肢**１項結合価述語**文**Ⅳ）

BEARER－PROCESS : B　Q

Th　TrPr-Tr=Rh

⑥２－１－３類．SF: $_x$ B $_d$　現象過程文

(To) Prší.　雨が降っている/雨降りだ。　☜ (自由項toの付加による)有標形

$VF_{3人称単数中性}$　（**単肢**φ結合価述語**文**Ⅰ）

(BEARER－)PROCESS : (B)　Q

(ThPr) TrPr-Tr=Rh

⑦２－２－１類．SF: $_x$ A(($_y$ LC $_z$) T ($_y$ LC $_z$))*7 ⇦△^{1} T △^{2}　移動変化文

(On) Vyprázdnil sklenici (z piva).　彼は(ビールの)グラスを空にした。　☜ (自由項onの付加による)有標形

($N_{主格}$－) $VF_{3人称単数男性}$ － $N_{対格}$(－ $_zN_{調格}$)　（**両肢**３項結合価**述語文**Ⅵ）

↓ $N_{主格}$～$_x$～AGENT, $N_{対格}$～$_z$～LOCUS, $_zN_{調格}$～$_y$～LOCATUM

(AGENT－) REMOVAL－PATIENT/CONTAINER/LOCUS(－CONTENT/LOCATUM) :

(B)　Q　　Sp　FSp

(ThPr) TrPr-Tr　Rh　(RhPr)

⑦′２－２－１類．SF: $_x$ A($_{p(y)}$ T $_{p(y)}$)⇦△^{1} T △^{2}　過程変化文

(On) Rozesmál ji.　彼は彼女を笑わせた。　☜ (自由項onの付加による)有標形

($N_{主格}$－) $VF_{3人称単数男性}$ － $N_{対格}$　（**両肢**２項結合価**述語文**Ⅴ）

↓ $N_{主格}$～$_x$～AGENT, $N_{対格}$～$_y$～PATIENT

(AGENT－) CAUSATION－PATIENT : (B)　Q　　Set

(ThPr) TrPr-Tr=Rh DTh

⑦″２－２－１類．SF: $_x$ A(($_x$ L $_y$) T ($_x$ L $_y$))⇦$_s$^{1} T $_s$^{2}　動作移動変化文

(On) odešel.　彼は立ち去った。　☜ (自由項onの付加による)有標形

($N_{主格}$ —) $VF_{3人称単数男性}$　（**両肢**１項結合価**述語文**Ⅳ）

↓ $N_{主格}$～$_x$～AGENT/PROCESSOR

(AGENT —) PROCESS : (B)　　Q

(ThPr) TrPr-Tr=Rh

⑦′′′ 2-2-1類. SF: $_x$ A(($_x$ PR $_y$) T ($_x$ PR $_y$))⇦$_p{}^1$ T $_p{}^2$　動作過程変化文

Rozesmála se. 彼女は(突然)笑いだした.

Ona se rozesmála. ☜ (自由項ona付加による)有標形

($N_{主格}$ —) $VF_{3人称単数女性}$ — $RFL_{対格}$　（**両肢**１項結合価**述語文**Ⅳ）

↓ $N_{主格}$～$_x$～AGENT=PATIENT, $RFL_{対格}$～$_y$～PATIENT

PROCESS — PATIENT : (B)　　Q

(ThPr) Th TrPr-Tr=Rh

⑧ 2-2-2類. SF: △^{1} T △^{2}{△1:($_x$ QL $_y$) ≠△2:($_x$ QL $_y$)}　INCHOATIVES文

Sklenice se vyprázdnila. グラスは空になった.

$N_{主格}$ — $RFL_{対格}$ — $VF_{3人称単数女性}$　（**両肢**１項結合価**述語文**Ⅳ）

↓ $N_{主格}$～$_x$～PATIENT^1, $RFL_{対格}$～$_y$～PATIENT$^{2=1}$

PATIENT/CONTAINER — MUTATED PROCESS : B　　Q

DTh Th TrPr-Tr=Rh

⑨ 2-2-2類. SF: $_x$ A(($_x$ PM $_z$) T ($_y$ PM $_z$))*8　情報（心情）移動変化文

(On) Řekl mi o tom, že letos procestuje. 彼は今年旅行すると私に言ってくれた. ☜ (自由項on付加による)有標形

($N_{主格}$ —) $VF_{3人称単数男性}$ — $N_{与格}$ — $_o N_{前置格}$ — $_{ze}$SENT　（**両肢**３項結合価**述語文**Ⅵ）

$N_{主格}$～$_x$～AGENT/M. POSSESSOR^1, $N_{与格}$～$_y$～RECIPIENT/M. POSSESSOR^2

↓ $_o N_{前置格}$(— $_{ze}$SENT)～$_z$～PATIENT/M. CONTENT

(SENDER/M. POSSESSOR)SENDING/M. POSSESSION — RECIPIENT — INFORMATION/M. CONTENT :

(B)　Q　Set　Sp

(ThPr) Tr Th　Rh

⑩ 2-2-3類. SF: △^{1} T △^{2}{△^{1}:$_s{}^1$≠△^{2}:$_s{}^2$}　状態変化文

Setmělo se. <být tma　暗くなった. <暗い

Setmělo se tu. ここは暗くなった. ☜ (選択項tuの付加による)有標形　1-3類. 状態(SF: S)のsTs形

$VF_{3人称単数中性}$ — $RFL_{対格}$　（**単肢**１項結合価**述語文**Ⅱ）

MUTATED PHENOMENON/STATE : (B-)Q　　Set

Rh=Tr-TrPr Th ThPr

6．結論

チェコ語の文型の機能構造は、多様なタイプの具体例分析から、以下の４つの傾向により特徴付けることが可能である。

i．非変化文のうち、属性文・状態文・動作過程文・状態過程文は、それぞれ単肢文・

両肢文の違いがあるものの、ともに$N_{主格}$＝担い手の条件下、(B-)Q:(Th-)Tr=Rhつまり分析的な属性スケールの機能構造を持つ。

ii．存在文と現象過程文は、ともに単肢繋辞文ではあるものの、それぞれEx-Phおよび(B-)Q:(Th=)Tr=Rhつまり融合的な現象および属性スケールの機能構造を持つ。

iii．過程変化文と移動変化文（ともにSF:$_x$A(△^{1}T△^{2}))は**両肢述語文**で表示され、変化の担い手＝動作主の条件下、B-Q(-Sp):Th-Tr(=Rh)(-Rh)つまり分析的な属性スケールの機能構造を持つ。

iv．状態変化文とINCHOATVES文（ともに△^{1}T△^{2})は、それぞれ単肢１項・両肢１項の違いや変化の担い手＝被動作主の表示不可・可の違いがあるものの、ともに動作主表示不可の条件下、(B-)Q:(Th-)Tr=Rhつまり融合的な属性スケールの機能構造を持つ。

（注）

*1「SFとは、相関関係（文形成）機能の観点から関与的であるような述語特徴の記号記載事項である。」（Daneš et al.(1987),p52の抄訳）

*2「VALENCY(結合価):位置や表示子により形式的に示される要素を結合する語彙素や句のカテゴリー的容量」(Čermák(1997)p.396の抄訳)

*3「インテンション(INTENSION):単語等の正しい使用を条件付けるような意味素性・属性の総体」(Čermák(1997),p.335の抄訳)

*4 $_x$ A(△^{1} T △^{2})のcausativeness使役性に関しては、5.⑦を参照。

*5 現象スケール:(Set-)Ex-Ph:(Th-)Tr-Rhおよび属性スケール:(Set-)B-Q-Sp-FSp:(Th-)DTh-Tr-Rhおよび統合スケール:(Set-)Ex-Ph=B-Q-Sp-FSp:(Th^1-)Tr^1-Rh^1=DTh^2-Tr^2-Rh^{2}で、詳細はSvoboda(1989)を参照。

*6 破線・実線・二重線によるアンダーラインは、それぞれTh要素・Tr要素・Rh要素を表わす。機能要素の表示については、半角縮小文字が名詞句要素に、半角文字が文要素に、それぞれ対応する。

*7 ⑦全体は、すべて$_x$ A(△^{1} T △^{2})つまり動作主が引き起こす変化を表わすので、対応する動詞を*causative*でくくることが可能であり、特に⑦''⑦'''は動作主($_x$)が変化(T)に直接関与することから、*autocausative*または*semicausative*と呼ばれることがある。
Cf.SF: $_x$ A(($_x$ PR $_y$) T ($_x$ PR $_y$)) : Dočetla. 彼女は読み終えた。

*8 情報や心情等の所有における変化を意味する動詞は、*erba dicendi*、*verba sentiendi*と呼ばれ、SFでは関係子PMで表示される。

参考文献：

Čermák, F.(1997): *Jazyk a jazykověda* (*Language and linguistics*), Pražská imaginace:Praha.

Daneš, F. et al.(1987): *Vetné vzorce v češtině* (*Sentence patterns in Czech*), Academia:Praha.

本城1995:「文型のＦＳＰ化に向けて：日英チェコ語の対照分析」、*Ars Linguistica* Vol.2, pp.124-138.

SČC: *Skladba češtiny pro cizince* (*Czech Syntax for Foreigners*) edited by P. Karlík and A. Svoboda, Rektrát UJEP:Brno, 1982.

Svoboda, A. (1989): *Kapitoly z funkční syntaxe* (*Chapters from Functional Syntax*), SPN:Praha.